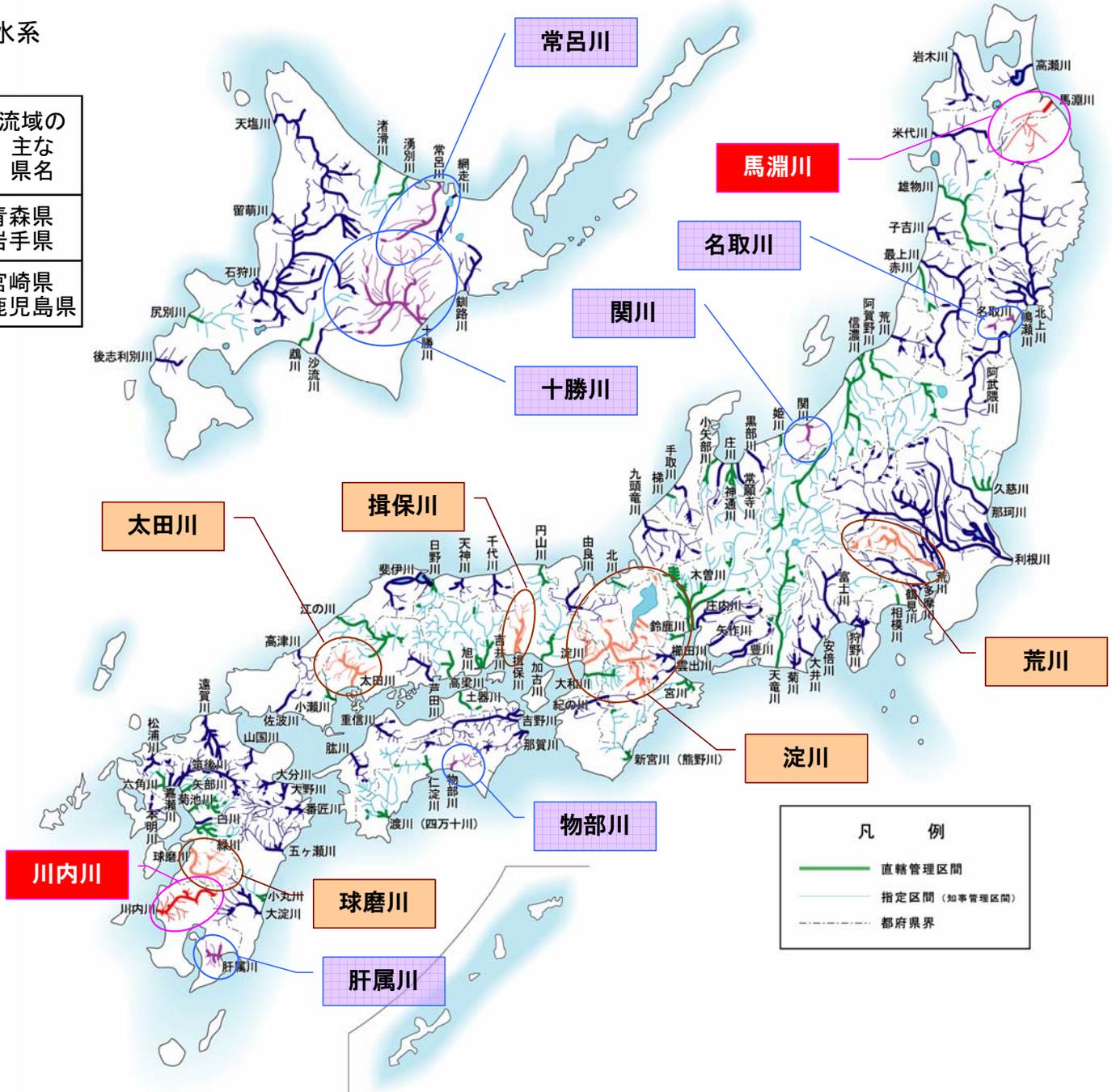


河川整備基本方針(1級水系)策定状況

新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路延長 (km)	流域内人口 (千人)	想定氾濫区域内人口 (千人)	流域の主な県名
馬淵川	2,050	142	188	59	青森県 岩手県
川内川	1,600	137	196	57	宮崎県 鹿児島県



	本日の河川分科会での審議水系	6水系
	新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系	2水系
	基本方針検討小委員会で審議中の水系	5水系
	河川整備基本方針策定済み水系	58水系

馬淵川水系

流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 2,050km²
 幹川流路延長 : 142km
 流域内人口 : 約19万人
 主な市町村 : 八戸市、二戸市
 想定氾濫区域面積 : 約57.7km²
 想定氾濫区域人口 : 約6万人
 想定氾濫区域内資産額 : 約9,000億円

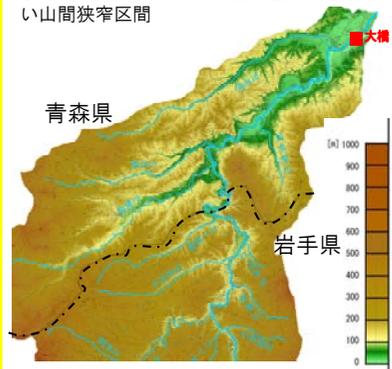
工事実施基本計画

対象降雨量 : 165mm/日(1/100)
 基本高水のピーク流量 : 3,500m³/s(大橋)
 計画高水流量 : 2,700m³/s(大橋)

地形・河川特性

●上・中流部は狭窄区間

八戸平野を流れる勾配が緩やかな下流部に対して、中上流部の大部分が急勾配で川幅も狭い山間狭窄区間



- 下流部は青森県の第二の都市八戸市があり、流域内人口及び資産の3割が集中しており、氾濫域が広範で被害も甚大
- 平成14年7月、16年9月など、近年、浸水被害が頻発
- 中・上流部は、原始河川に近い掘込み河道で、沿川の段丘上に宅地が点在
- 度重なる洪水氾濫被害軽減のため、馬淵川と新井田川の河口を分離する大規模な放水路開削(昭和30年完成)を実施



治水対策

●河口部

- ・昭和16年度に新水路掘削を開始
- ・昭和25年度に新旧河川の締切堤・築堤が完成通水
- ・昭和30年度に橋梁、床止め等を施工し全事業完成
- ・昭和39年に新産業都市の指定を受ける
- ・現在は、土地利用の高度化が図られている

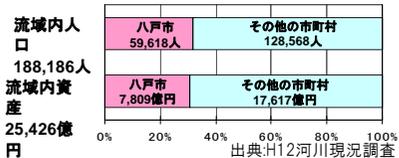
●中流部

浸水常襲地帯である当該地区を災害危険区域に指定し、平成6年から宅地嵩上げの水防事業を実施



土地利用状況

●流域人口及び資産の3割が下流の八戸市に集中



主な洪水被害

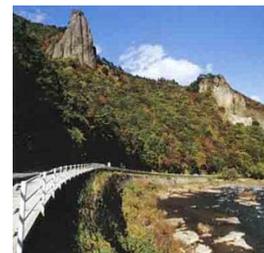
●近年洪水被害が頻発

洪水名	大橋地点実績流量	大橋地点流域平均2日雨量	被害状況
昭和15年9月	—	120mm	被害家屋 770戸
平成14年7月	1,384m ³ /s	145mm	死者 1名 被害家屋 237戸
平成16年9月	1,511m ³ /s	146mm	床上浸水 99戸 床下浸水 143戸



河川環境

●上流は、険しい渓谷が断続的に現れ、雄大な自然景観が多数存在



●中流は、沖積平野が広がり河岸にはヤナギ類やオニグルミを中心とした河畔林を形成



●下流は、都市公園としての利用のほか、タナゴ、シロウオ、スナヤツメなど貴重な魚類も多数生息



川内川水系

流域及び氾濫域の諸元

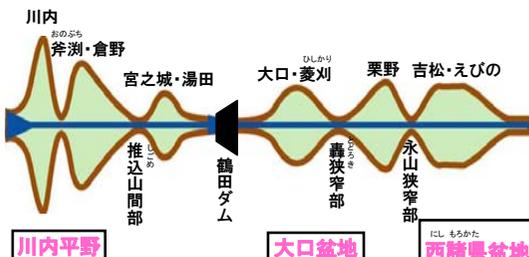
流域面積 : 1,600km²
 幹川流路延長 : 137km
 流域内人口 : 約20万人
 想定氾濫区域面積 : 77km²
 想定氾濫区域内人口 : 約6万人
 想定氾濫区域内資産額 : 約7,900億円
 主な市町村 : 薩摩川内市、大口市、えびの市等

工事实施基本計画

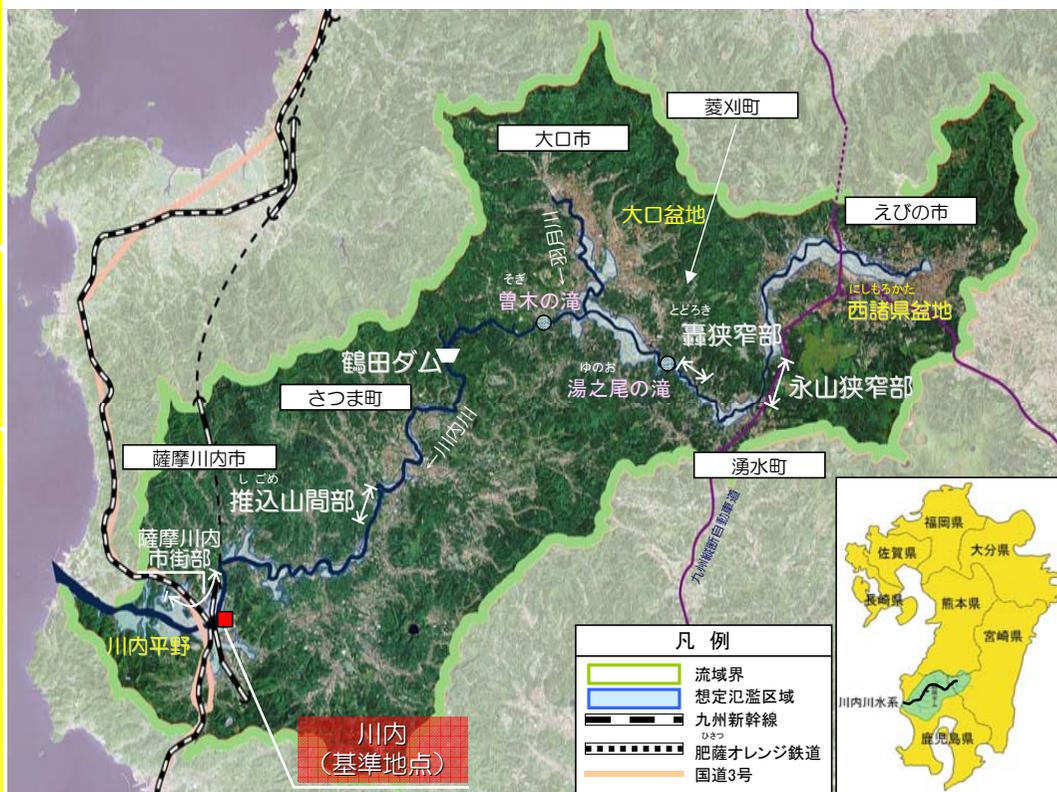
対象降雨量 : 425mm/2日 (W=1/100)
 基本高水のピーク流量 : 9,000m³/s (川内地点)
 計画高水流量 : 7,000m³/s (川内地点)

地形・河川特性

盆地と狭窄部が交互に現れるひょうたん型の地形



- 流域の年降水量は約2,800mmで全国平均の約1.6倍
- 狭窄部を挟んで各盆地が繋がるひょうたん型の地形で盆地・平地に人口が集中し、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
- 平成18年7月の激甚な洪水被害を受け、激甚災害対策特別緊急事業に着手し、輪中堤や宅地嵩上げ、堤防整備等を実施するとともに、鶴田ダムの洪水調節容量の増量と放流設備の増設を検討



治水対策

- 菱刈捷水路等の改修
蛇行部の捷水路の整備や狭窄部の部分開削



- 鶴田ダム(重力式コンクリートダム)
洪水調節・発電を目的に、昭和41年3月に完成



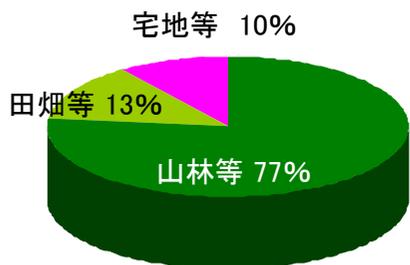
- 平成18年7月の洪水対策
激甚災害対策特別緊急事業(H18~22)に着手し、無堤部の築堤、輪中堤や宅地嵩上げ、河道掘削、分水路等を整備

↓
 ・浸水家屋約2,300戸のうち、約1,400戸の浸水を解消

- 鶴田ダムについて、異常な洪水により「計画規模を超える洪水時のダム操作」を実施したことを受け、洪水調節容量を増量するとともに、放流設備の増設を検討

土地利用状況

- 流域の77%が山地、13%が田畑等、宅地等は10%
- 人口資産は下流の薩摩川内市に集中



主な洪水被害

- 平成18年7月に活発な梅雨前線により激甚な洪水被害が発生
- 中流区間の宮之城観測所において既定計画の計画高水流量を超過
- 鶴田ダムでは異常な洪水に対して「計画規模を超える洪水時のダム操作」を実施

洪水名	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	計(戸)
S46.6		3,489	3,489
S47.6		5,202	5,202
H5.8	170	423	593
H9.9	264	223	487
H18.7	1,848	499	2,347



河川環境の特徴

- 鶴田ダムより上流は、曾木の滝、湯之尾滝等、景勝地が点在



景勝地: 曾木の滝 (大口市) 流域を代表する観光名所

- 鶴田ダムより下流の区間は瀬淵や河畔林などの多様な河川環境を呈している



瀬淵の連続

